

文明開化の時代  
沿て大徳の権護も

浮世の往還さえも世よき並木通を

劇場本舞臺書酒むの審神門の

地へ向朱塗土の仁王 観音の御堂を高く仰ぎ右へ

五重の塔をさるるの千本櫻の花紅茶時を粧風色ハ萬

吉原三芝居遊樂愉快を極 繁昌名譽割烹家

の大道具の目前城更 世話家体を度なり右側は

獲き裏家も潔く新糸神理小亭なる賈の倍をこ

捌ぐものと主人の周旋緑比鳥シヤモの仕込を吟味刻目

正々調進一着方ハ苦心の立トでも透む風味厚味の

文和調是を狂言の味もの云扱所作事の躍り縁

鮎のぬきハ在煮の和ふ六たな布ヲ鶏印の厚焼を懐の

料種家の口傳を請 加んもの於定火四二人ありまを一本

の合つけのあつめ肉梅をのりや御飯

居さすお會計のなるも廉くて味くて平座の當世東京の

隅のすまむ口國礎きて山評判見世開の社より泳曲

のよこび響く茲ハ根生る松の家枝葉堂を御取まふ

心動あきの程額をすけ さんかりて

當世十月明日より浅草並木町西側の落次

當日藤系 山月平 好あふり 松造家

新調相鴨鍋 六百洞  
茶室常もあむ 晋春洞  
毎年の宴をせう 橋な夜三百年又  
玉子きき百洞人様トを愛すやい

新調相鴨鍋 瀬川如皐作 文庫10-8027-61

早稲田大学図書館蔵 / Waseda University Library

